

ActiveImageTM 2022
PROTECTOR

ActiveImage Protector 2022

Desktop

Quick Guide



ActiImage Protector 2022 Desktop Quick Guide

このガイドでは、ActiImage Protector 2022 Desktop をご使用いただくための、基本操作について解説しています。更に全ての使用方法、設定項目については、弊社ホームページの <https://www.actiphy.com/ja-jp/support/tech-resource/>にて各項目の情報入手をしてください。

ActiImage Protector 2022 Desktop のインストール

始めに ActiImage Protector 2022 Desktop の Setup を起動します。

ActiImage Protector のインストールフォルダを設定することができます。基本的にはデフォルト値でインストールを行います。

ご購入時に納品されたプロダクトキーを入力してください。

無料の関連製品のセットアップを行うことができます。

インストールが実行されます。

QuickGuide では、下記関連製品のみ説明致します。

Actiphy Boot Environment Builder

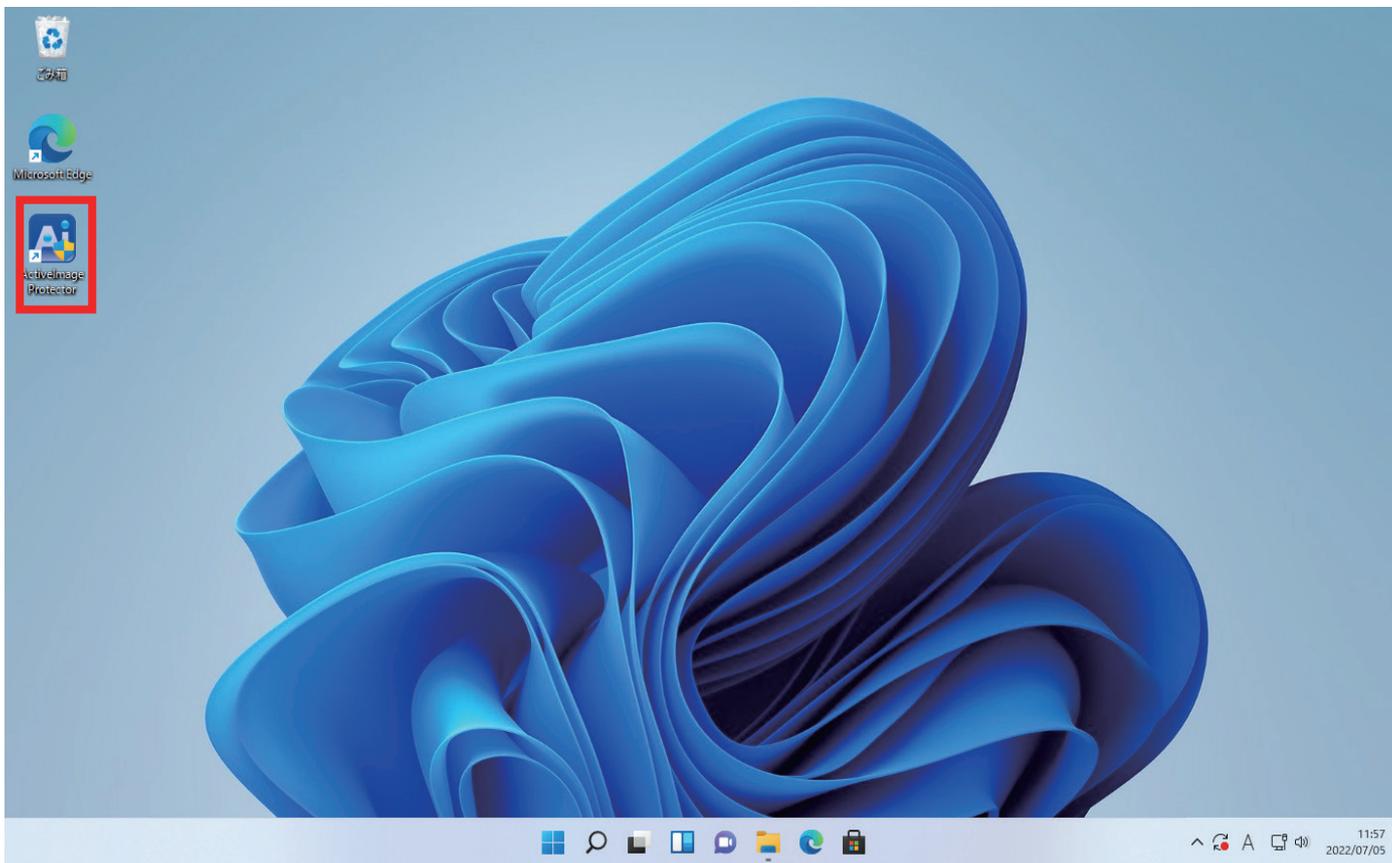
ActiImage Protector で取得したバックアップファイルを使用して、システム領域含む全てを一括で復元する時に使用する起動媒体を作成することができます。また起動媒体を使用して、コールドバックアップも可能です。起動媒体として使用できるのは、ISO ファイル、DVD メディア、USB 機器となります。



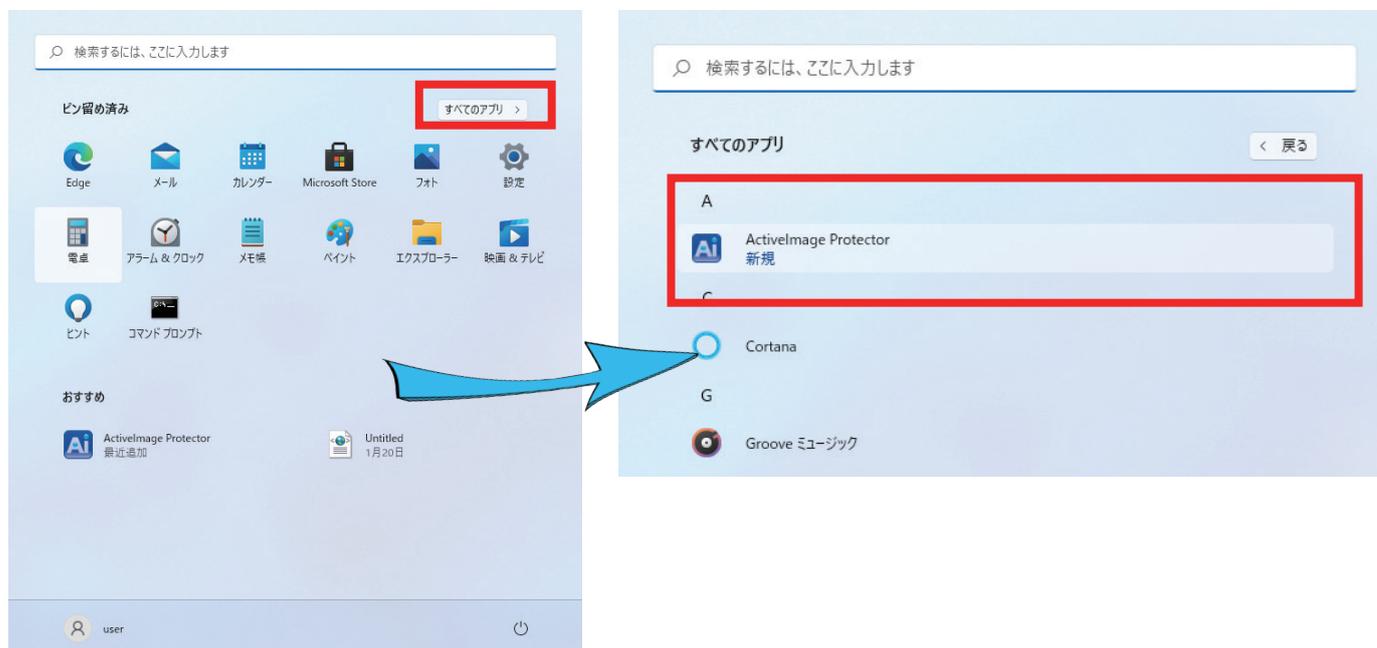
ActiImage Protector 2022 Desktop 初めての起動

インストール完了後の再起動は不要です。そのまま下記の手順により ActiImage Protector 2022 を起動して、初回の設定を行います。クイックガイドでは基本的なスケジュールバックアップでの運用を前提に説明しています。必ず全ての項目の設定が必要とはなりませんので、必要な部分を選択して設定を行ってください。

ActiImage Protector 2022 Desktop のインストールが完了すると、デスクトップ上にアイコンが作成されます。



スタートアイコンをクリックして”すべてのアプリ”をクリックして A の欄の ActiImage Protector をクリックで実行します。



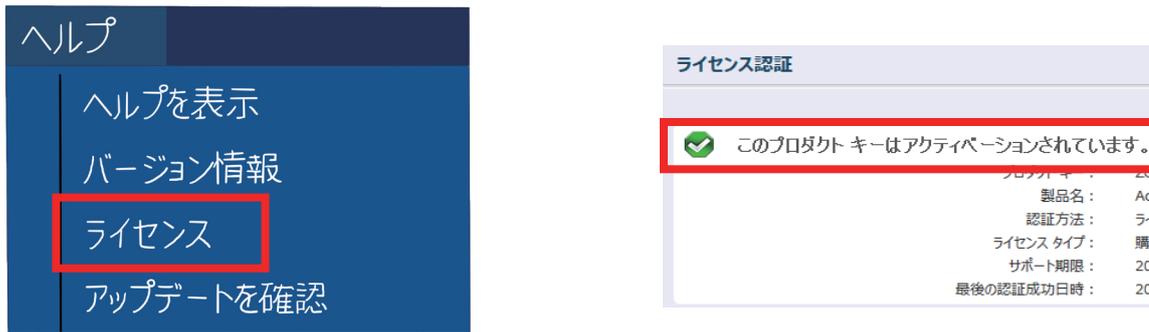
ActivelImage Protector 2022 Desktop を起動すると、下図のようにコンソールが表示されます。基本的な操作に必要なコンソール部分の説明は下記を参照してください。



- ① ヘルプでは、サポート情報の収集、ライセンスの状態、ActivelImage Protector の詳細な、バージョンを確認することができます。
- ② バックアップタスクを作成するウィザードを起動します。
- ③ 作成したバックアップファイルから、ファイル/フォルダ単位での復元を行う場合に、使用します。
- ④ ActivelImage Protector の初回起動時は、バックアップがまだ実行されていないため保護されていないと表示されますが、バックアップを実行後に、表示は変更されます。
- ⑤ バックアップ対象のディスク構成などが表示されます。

アクティベーションの確認

始めに ActiImage Protector 2022 Desktop のプロダクトキーが、正常にアクティベーションされているか、確認します。下図のように、ヘルプからライセンスを選択してクリックします。正常にアクティベーションされている場合、下図のように「このプロダクトキーはアクティベーションされています。」と表示されます。



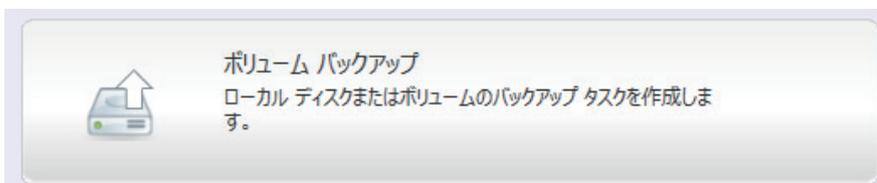
- ※ アクティベーションはインターネットに接続可能な環境の場合、インターネットを利用して自動的に、プロダクトキーをアクティベーションします。もしもインターネット環境に接続できない環境の場合には、アクティブアイの下記のサイトより、アクティベーションガイドを参照して、プロダクトキーのアクティベーションを行ってください。
<https://www.actiphy.com/ja-jp/support/tech-resource/>
またプロダクトキーのアクティベーションは、1日1回以上行います。連続して30日間アクティベーションが正常に行えない場合、ActiImage Protector の動作が停止して、バックアップなどが行えなくなります。製品導入後には、必ずプロダクトキーが正常にアクティベーションされていることをご確認ください。

バックアップタスクの作成

バックアップジョブ作成の大まかな流れ

- ・バックアップ対象を選択します。
バックアップ対象はディスク単位またはボリューム単位の何れかで設定することができます。
- ・保存先を設定します。
保存先対象は USB 周辺機器を含むローカルディスク、ネットワーク上の共有フォルダ、クラウドストレージ各種に対応しています。
- ・スケジュールの設定
スケジュールの設定はマルチスケジュール対応となるため、複数のスケジュールを設定することも可能です。ノート PC などで、決まった時間起動している可能性が低い場合には、ワンタイムバックアップの1回のみまたは、スケジュール設定したタスクを作成して無効化しておいて、必要な時に手動でベースまたは増分バックアップを動作させることも可能です。またシャットダウンプロセスを使用することによりパソコンのシャットダウン時にバックアップが連動することもできます。
- ・各種オプション機能の設定
デフォルトの圧縮機能 (約 30% 圧縮) 重複排除圧縮機能 (約 50% 圧縮)、バックアップファイルの暗号化から、バックアップファイルのマージ、起動確認、世代管理など多くのバックアップオプションを用意しています。この QUICKGUIDE では、基本的なオプションのみ記述します。

コンソールの②のバックアップをクリックして、バックアップウィザードを起動します。起動したら下記のボリュームバックアップをクリックし、バックアップタスクを作成します。



バックアップ対象の選択について

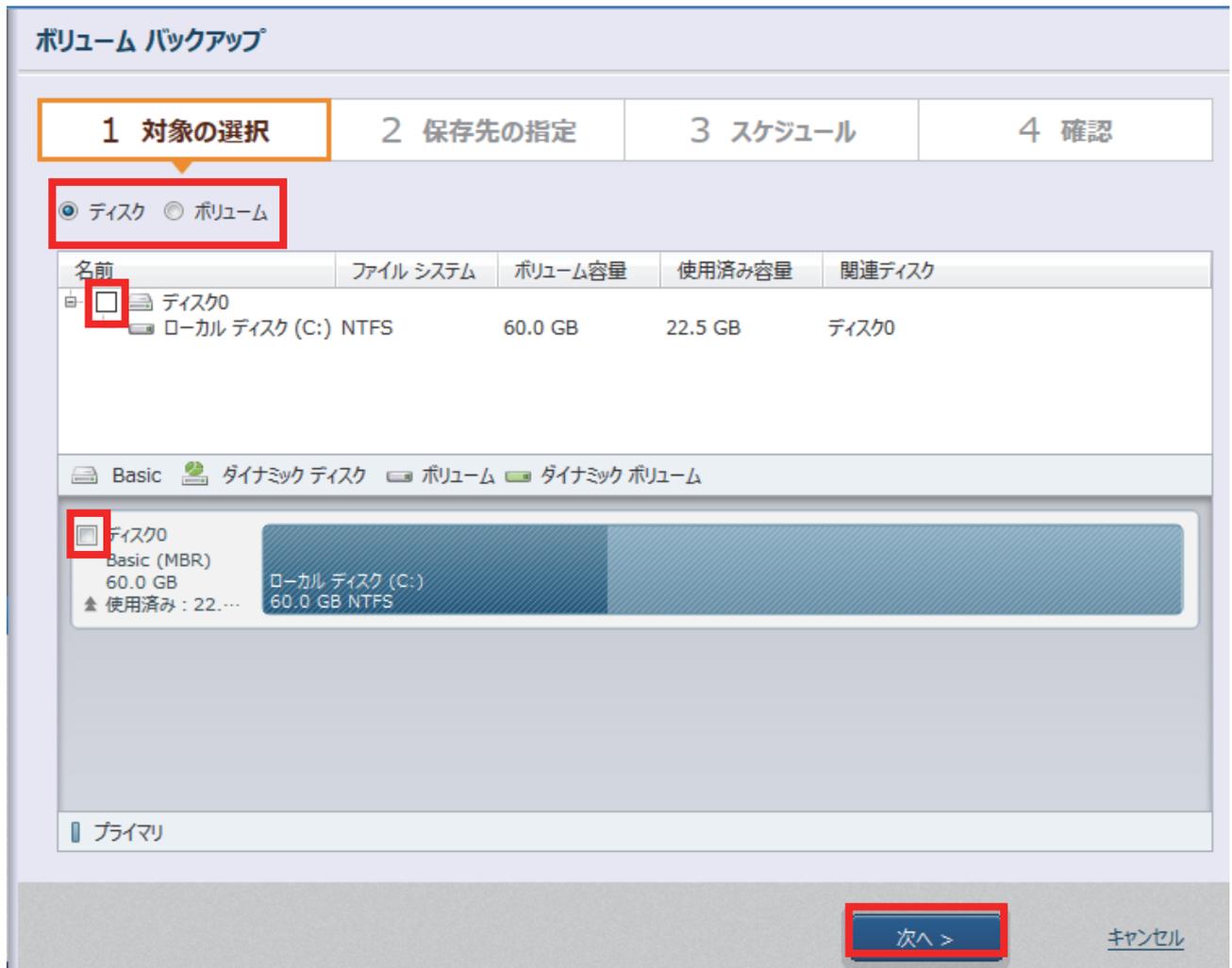
デフォルト設定では、ディスク単位でのバックアップとなっています。ボリューム単位にする場合には、下図の赤枠内の一番上のラジオボタンで切替を行ってください。

ディスク単位：ディスク全体のバックアップを行います。特に指定がない場合、このままで問題ありません。

ボリューム単位：ディスク上に作成されているボリュームを選択してバックアップ対象とすることができます。

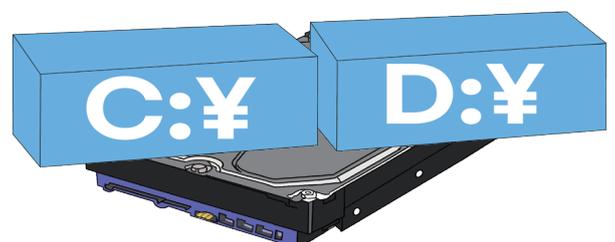
※このガイドでは基本的なディスク単位でのバックアップを前提に記述します。

下図のようにコンソールには、ディスク単位での表示がされていますので、バックアップを取得したいディスクのチェックボックスをクリックして、チェックをいれます。同様に下記に拡大されたディスク全体図のチェックボックスは自動的にチェックが付きます。バックアップ対象が決まったら、画面下の「次へ」をクリックします。



・ボリュームでのバックアップについて

ボリューム単位でのバックアップの場合とは下記の構成の場合、C:¥/D:¥単位でのバックアップ対象の設定が可能となります。



バックアップ保存先の設定について

バックアップ保存先の設定画面は下図の通りです。バックアップファイルの保存先を設定するには、赤枠の「フォルダーを選択」をクリックして下さい。

青枠内では取得するバックアップの圧縮設定を行うことができます。このガイドではデフォルト設定の通常圧縮で実行しますが、データ容量をさらに小さくしたい場合には、「重複排除圧縮」を選択してください。またパスワード設定と暗号化も設定可能です。パスワードを設定した場合、ファイル単位の復元を含むリカバリー行為の際に、パスワードの入力を求められます。緑の枠では、こちらは保存先をソフトウェアベースでバックアップ実行中以外、切り離す設定を行うことができます。USB 周辺機器から、ネットワークまで設定可能となりますので、ランサムウェア対策などの一貫で設定する場合には、保存先タイプに合わせてチェックをしてください。

ボリューム バックアップ

1 対象の選択 2 保存先の指定 3 スケジュール 4 確認

タスク名：
Backup_20220708_1702

保存先： ?
フォルダーを選択...

コメント：

保存先隔離オプション： ?

- バックアップ後にドライブレターを解除する
- バックアップ後に保存先 HDD をオフラインにする
- バックアップ後に保存先のリムーバブル USB HDD を取り外す
- バックアップ後に指定したネットワークを無効にする

ネットワーク インターフェースを選択してください

オプション： < 高度な設定

圧縮 ?

- 重複排除圧縮
レベル 2 (推奨)
一時ファイル フォルダを変更 ?
- 通常圧縮
高速

パスワード保護 ?

パスワード
パスワードの確認

強度：
 暗号化
AES 128 ビット

< 戻る 次へ > キャンセル

「フォルダーを選択」をクリックすると下図のようにウィンドウが表示されますので、保存したい媒体のアイコンをクリックして設定します。ネットワーク上の共有フォルダにバックアップを行う場合には、赤枠内に UNC パスを記述してください。

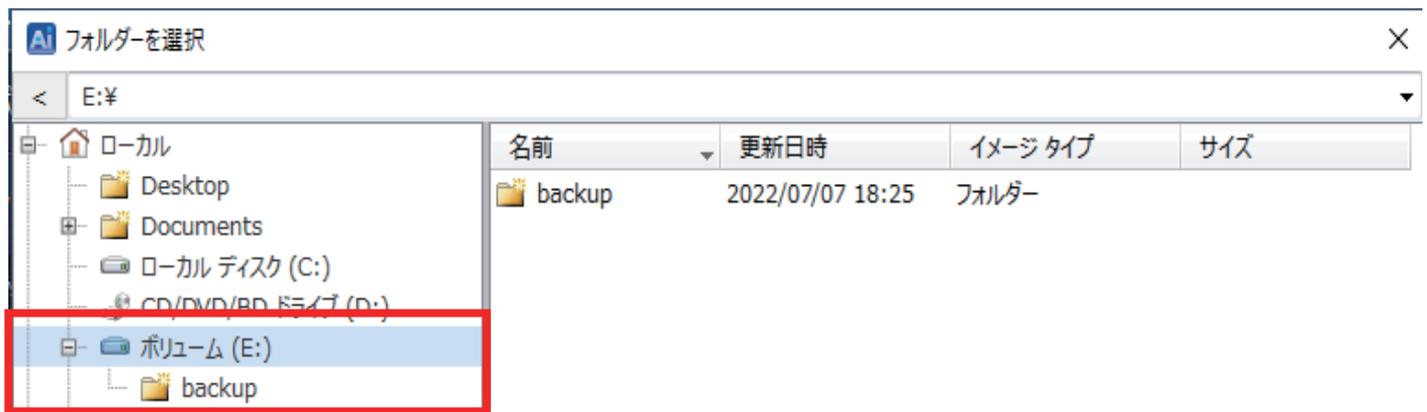
フォルダーを選択

< [Redacted Path] >

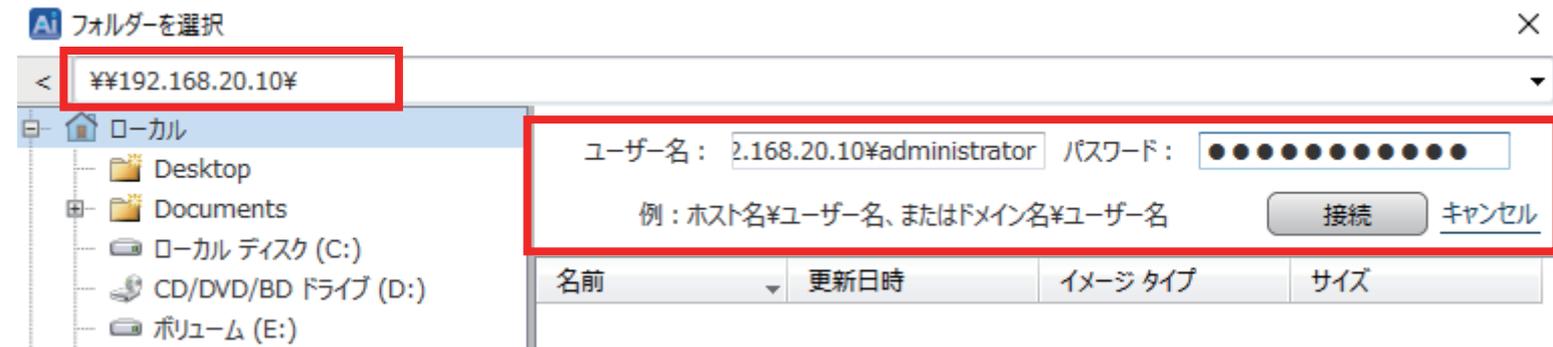
名前	更新日時	イメージタイプ	サイズ
ローカル			
Desktop			
Documents			
ローカル ディスク (C:)			
CD/DVD/BD ドライブ (D:)			
OneDrive			
ネットワーク			
MS Azure			
Amazon S3			
SFTP			

バックアップ保存先をローカルディスクまたは、USB 機器に設定する場合

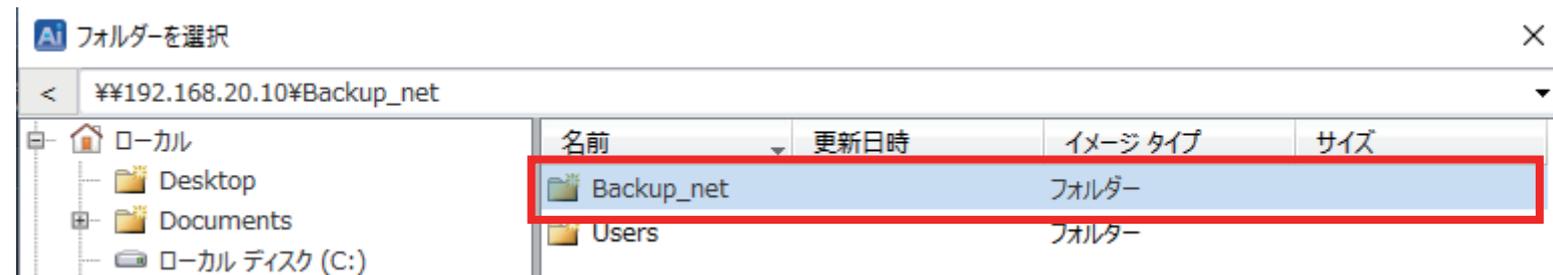
下図のようにアイコンから接続しているディスクを選択して、保存先のフォルダを選択してください。



NAS などの共有フォルダを保存先として利用する場合には、下図のように保存先の UNC パスを入力します。すると右側に保存先の NAS へのログイン情報を入力する画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力して、接続ボタンをクリックしてください。



接続したら、下図のようにバックアップファイルを保存したいフォルダを選択します。これでネットワーク保存先の設定が完了となります。



保存先の設定が下図のように行えたら、「次へ」をクリックします。



スケジュール設定について

保存先の次は下図のように、スケジュールの設定画面が表示されます。

赤枠 デフォルトではスケジュールバックアップとなっています。スケジュールでなく、今回1回のみバックアップが良い場合には、「ワンタイムバックアップ」のラジオボタンをクリックしてください。

青枠 デフォルトでは月単位となっていますが、その他、週単位、指定日時、指定曜日から選択することができます。青枠のスケジュールは、ベース（フルバックアップ）となります。初回のバックアップでは必ずベースバックアップを取得する必要があります。細かいスケジュール設定について次ページで解説します。

緑枠 デフォルトでは週単位となっています。また開始時刻は7時から21時までの1時間毎の増分バックアップとなっていますが、一般的には下記の「一回のみ実行」で運用されることが多いです。また増分バックアップを設定しない場合手で増分バックアップ自体が行えなくなります。

黄枠 イベントバックアップの設定部分です。デフォルトでは何も設定されていませんが、PCをシャットダウンするタイミングでバックアップを実行したい場合には、チェックボックスをクリックして設定を行ってください。PCをシャットダウンすると、バックアップが開始され、バックアップ完了後にPCのシャットダウンを行います。

紫枠 スケジュール設定されていても、電源投入されていない場合などで、スケジュールバックアップが実行出来なかった場合に、バックアップが出来る状態になったタイミングで自動的にバックアップ実行を行うための設定です。

スケジュールの設定

Backup_20220708_1702 有効化日時: 2022/07/08 18:13 ~ 2023/07/08 18:13 期限なし

タスクタイプ: ワンタイムバックアップ スケジュールバックアップ

ベース ?

月単位

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	月末			

実行時間: 18:13

増分 ?

週単位

日曜日 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日

一定間隔で複数回実行

開始時刻: 終了時刻: 実行間隔:

07:00 21:00 60 分ごと

一回のみ実行: 18:13

新規トリガーを追加 (ベース)

イベントバックアップ:

システムのシャットダウン/再起動 ベースと増分

新規トリガーを追加 (増分)

オプション:

スキップされたスケジュール タスクを自動的に実行する

ベースバックアップがスキップされていた場合、優先して実行する

OK キャンセル

スケジュールタスクの作成の基本

例えば、週単位でのバックアップを行う場合、始めに右図のようにプロダウンメニューを表示して、週単位を選択してください。

ベース側の曜日をクリックして、増分スケジュールを設定します。デフォルトでは7時から21時までの1時間毎になっていますので、下記の「一回のみ実行」に変更しています。下記の設定で、金曜の18時から毎週ベースバックアップが動作して、月曜日～木曜日まで毎日18時に増分バックアップが動作するスケジュールとなります。

タスクタイプ: ワンタイムバックアップ スケジュールバックアップ

上図のスケジュールにより、右図のようにバックアップが運用されます。翌週には再度ベースバックアップが動作します。このベース+増分の組み合わせが1世代として、認識されます。



スケジュールでなく、PCをシャットダウンするタイミングで、バックアップ運用を行う場合には、下図のようにスケジュール設定を削除して、(赤いバツマークで削除可能です。)

ベース ?

左下側にあるイベントバックアップ内の「システムのシャットダウン/再起動」のチェックをして、「ベース+増分」または「ベースのみ」を選択してください。

新規トリガーを追加 (ベース)

イベント バックアップ:

「ベースと増分」での運用の場合には、基本永久増分となります。この場合には、1世代で継続したバックアップとなりますので、世代管理は行えません。



「ベースのみ」での運用の場合には、毎回ベースバックアップとなります。1ベースバックアップで1世代と認識します。



ポストバックアッププロセスでは、様々なオプション設定が可能です。必要に応じて設定を行ってください。

- BootCheck：仮想環境の設定が必要です。取得イメージが起動可能かを確認します。
- イメージ検証：ベリファイ機能ですが、使用する場合バックアップ時間が長くなります。
- 結合：指定した増分ファイルの数以上になった場合に、結合して常に設定個数の増分バックアップファイルの個数で管理します。
- レプリケーション：バックアップ完了後に2次保存先にバックアップファイルを転送します。付属のImageCenterであれば、保存先などにインストール可能で、レプリケーション時のリソースも保存先のリソースとなります。ただし、保存先NASがWindowsOSベースとなります。

下記の設定ではオプション：内の世代管理を設定します。世代管理を設定することにより、保存先から古い世代のバックアップファイルが自動的に削除されるため、保存先のメンテナンスを軽減することができます。

「保有ポリシーを有効にする」のチェックボックスを入れてから、「保有するバックアップイメージの世代数」を入力して下さい。デフォルト値は3となっています。

ポストバックアッププロセス

BootCheck：未設定 イメージ検証：未設定 結合：未設定

レプリケーション：未設定

オプション：

保有ポリシーを有効にする 保有対象外となった世代のイメージファイルを全て削除 ?

保有するバックアップイメージの世代数：
3 新世代作成前に旧世代を削除する

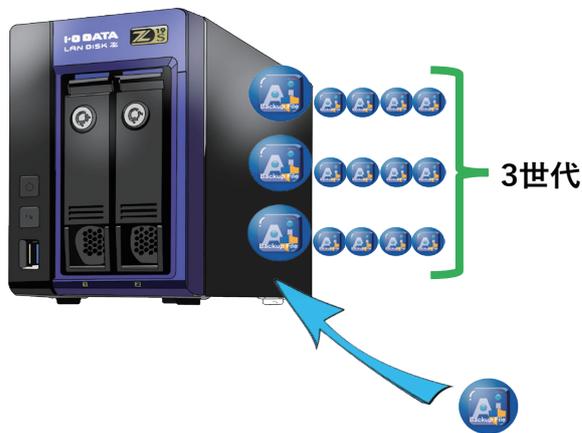
Eメール通知を行う タスク失敗時

タスクの優先順位 ?

フル(ベース)：
最低 低 中 高

増分：
最低 低 中 高

世代数を3と設定されている場合には、下記のように動作します。



1週間に1回ベースバックアップを行った場合、毎週1世代としてバックアップファイルが作成されます。この3セット分で、3世代となります。さらに翌週にベースバックアップが動作したタイミングで、4世代目のベースバックアップが作成されます。4世代目のベースバックアップが作成されたタイミングで、1番古いバックアップファイルのまとまりが削除されます。

削除は、増分のみなども設定可能ですが基本はベース + 増分を削除対象とします。

バックアップが失敗した場合に、メール通知が必要な場合には、「Eメール通知を行う」をクリックしてください。この機能を使用する場合、コンソールの「環境設定」-「Eメール通知設定」を選択して事前に設定しておく必要があります。

- 一般設定
- プロキシ設定
- Eメール通知設定
- 重複排除設定
- アラート設定
- コンソール設定
- オンラインポータル

Eメール設定:

送信元:

受信先:

件名: ActiveImage Protector

SMTPサーバーの使用:

SSL/TLSを利用 SMTPポート番号: 25

アカウント名: パスワード:

メールのテスト送信

最終画面では設定された内容の一覧を確認することができます。
特に問題がなければ、下図にある「完了」ボタンをクリックしてください。

ボリューム バックアップ

1 対象の選択 2 保存先の指定 3 スケジュール **4 確認**

バックアップ対象:

バックアップタイプ: ボリューム
バックアップ対象: C

保存先:

イメージファイルの予測サイズ: 16.9 GB
保存先: ¥¥192.168.20.10¥Backup_net
コメント: なし

オプション:

タスク名: Backup_20220708_1702
圧縮設定: 通常圧縮 (高速)
パスワード: なし
ディスクごとにイメージファイルを分割する: 無効
不良セクターを無視: 有効
ディスクメタデータのバックアップ: 無効
アクセス不能ボリュームを無視: 有効
強制的にコンポーネントモードを使用する: なし
除外ファイル: pagefile,hiberfi,volume information

エクスポート... < 戻る **完了** キャンセル

完了をクリックすると、初回のバックアップを直ぐに実行しますか?の画面が表示されます。直ぐにバックアップを行う場合には、「はい」をクリックして、バックアップを実行してください。スケジュールまたは、シャットダウンプロセスでのバックアップを実行する場合には、「いいえ」をクリックすることにより設定されたトリガーで初回バックアップが実行されます。初回バックアップは必ずベースバックアップとなります。

ActiveImage Protector

最初のスケジュール タスクを今すぐ実行しますか?
実行すると初回のスケジュール タスクがスキップされます。

はい いいえ キャンセル

「はい」をクリックすると、右図のように、バックアップタスクが動作します。

ダッシュボード

システム健全性ステータス

現在のタスク

ステータス	タスク	開始時刻	進捗(%)
実行中	Backup_20220708_1...	2022/07/11 13:15:00	0.1 %

ActiVImage Protector 2022 のバックアップファイルについて

作成されたバックアップファイルについては、今回保存先はこのガイドでも記述している保存先フォルダを使用した場合下図のようになります。



Windows のエクスプローラーで表示するとこのようになります。実際のバックアップ保存先設定時のフォルダは、Backup_net フォルダとしていますが、ActiVImage Protector 2022 では UUID を使用したフォルダ名をその下に作成します。またバックアップファイル名も同様に UUID を使用したファイル名となります。これは、ランサムウェア対策など、セキュリティ上フォルダ名、ファイル名を参照して、簡単に内容が把握できないようにするために、自動的にサブフォルダを作成してバックアップファイルを保存する仕様になっているためです。そのため、Windows エクスプローラーでバックアップファイルを見ると、複数の PC のバックアップを 1 個のフォルダ指定でバックアップした場合、どのサブフォルダのバックアップファイルが、どのマシンのバックアップファイルか識別が困難になります。その場合には、バックアップ保存先下にさらに識別できるようにサブフォルダを予め作成しておく必要があります。

ActiVImage Protector 2022 のコンソールからイメージ管理を経由して、保存先を参照した場合には、マシン名称なども参照できるので、常に ActiVImage Protector 2022 のコンソールから参照する場合であれば、特に何もする必要はありません。下図はコンソールから参照した場合の表示になります。

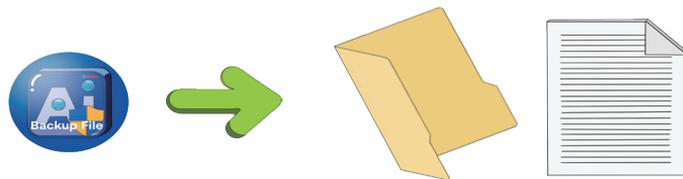
The screenshot shows the ActiVImage Protector 2022 console interface. On the left is a navigation menu with options like 'ダッシュボード', 'バックアップ', 'スタンバイ', '復元', 'イメージ管理', 'イメージのマウント', '仮想化', and 'ローカル ホスト'. The main area is titled 'イメージ管理' (Image Management). At the top, it shows the path '¥¥192.168.20.10¥Backup_net' and the computer name 'コンピューター'. Below this, a table lists backup images. One entry is highlighted with a red box: 'desktop-ihki9fe' with a timestamp of '2022/07/11 13:15:08'. Below the table, there is a section for 'イメージとバックアップ元ホストの情報' (Image and Backup Source Host Information) with the following details:

バックアップ時間:	2022/07/11 13:17:43	イメージタイプ:	Agent-Base
イメージバージョン:	301	バックアップタイプ:	フル (ベース)
バックアップ元:	C ;	圧縮オプション:	通常 (高速)
イメージファイルの分割:	なし	パスワード設定:	なし
未使用セクター:	なし	MD5 ファイル:	なし
OS 名:	Microsoft Windows 10 Professional (build 19042), 64-bit(64)		
ホスト名:	desktop-ihki9fe		
コメント:			

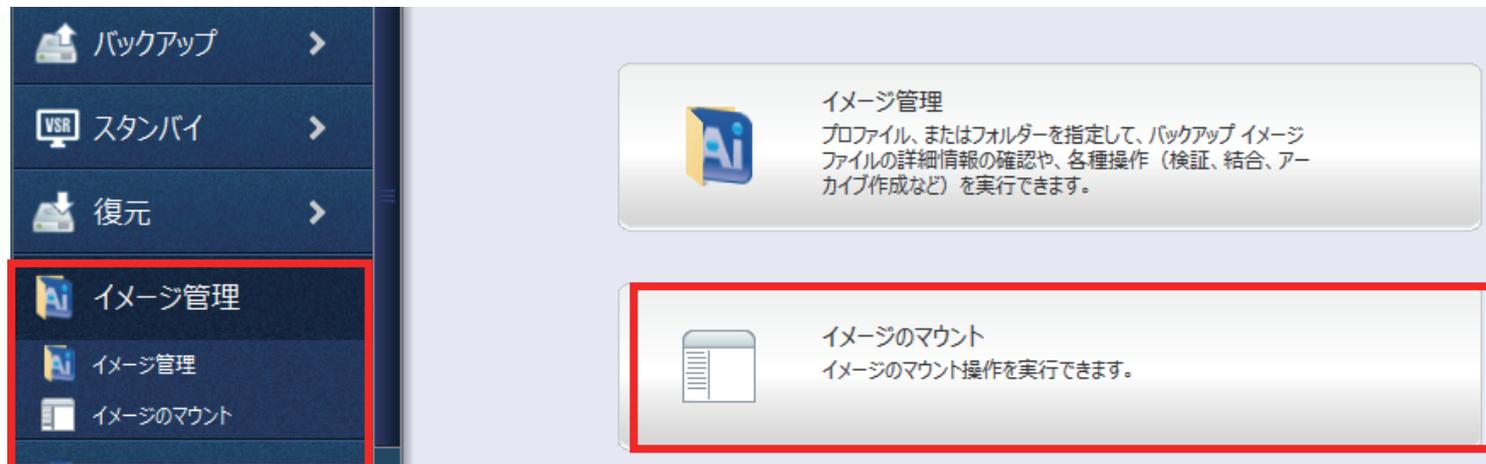
At the bottom of the console, there are buttons for '詳細' (Details) and 'ディスク マップ' (Disk Map).

ファイル単位の復元について

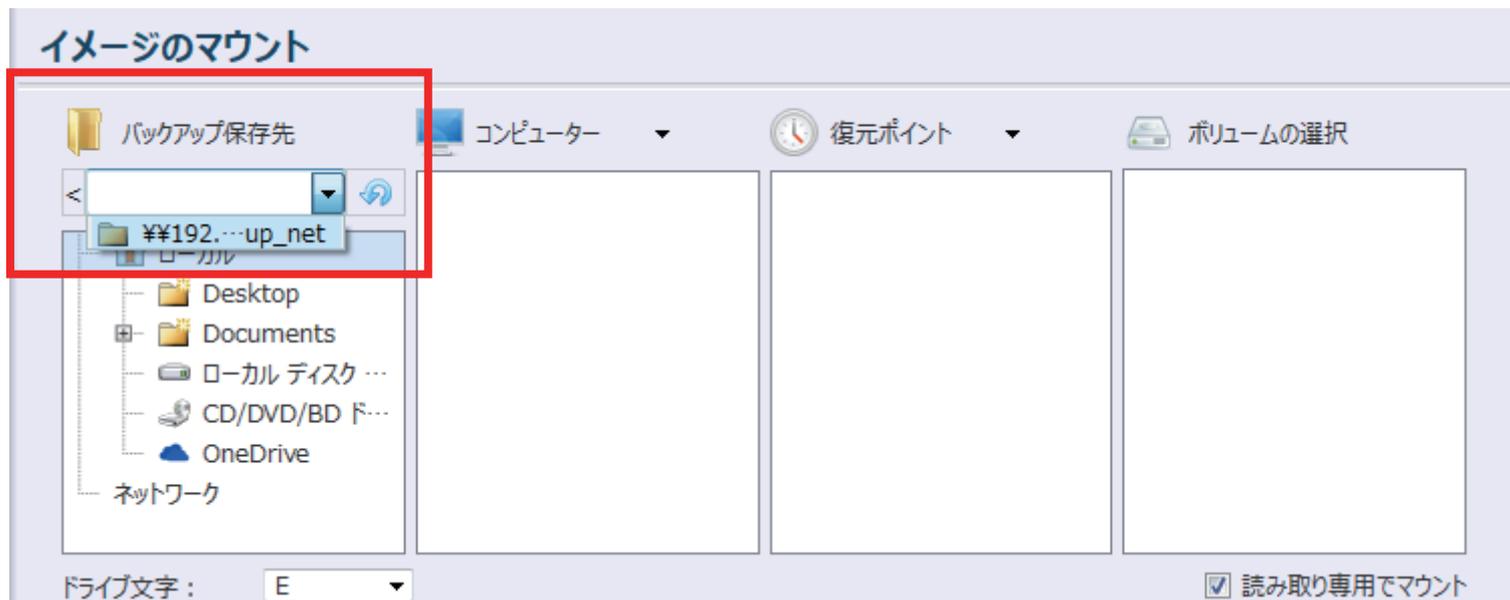
ActivImage Protector 2022 で作成したバックアップファイルから、ファイル/フォルダ単位で復元する場合には、コンソールのイメージ管理から、作成したバックアップファイルをマウントすることにより、自由に取り出すことができます。



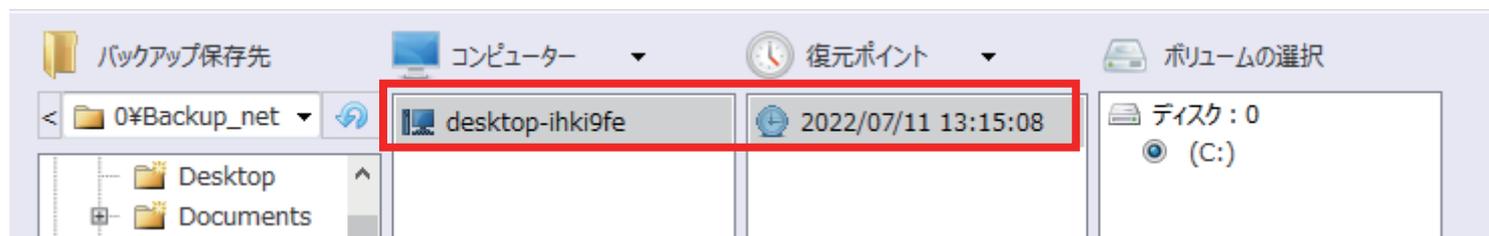
ActivImage Protector 2022 のコンソールよりイメージ管理をクリックすると、右側の画面に、「イメージ管理」と「イメージのマウント」が表示されますので、下側の「イメージのマウント」をクリックしてください。



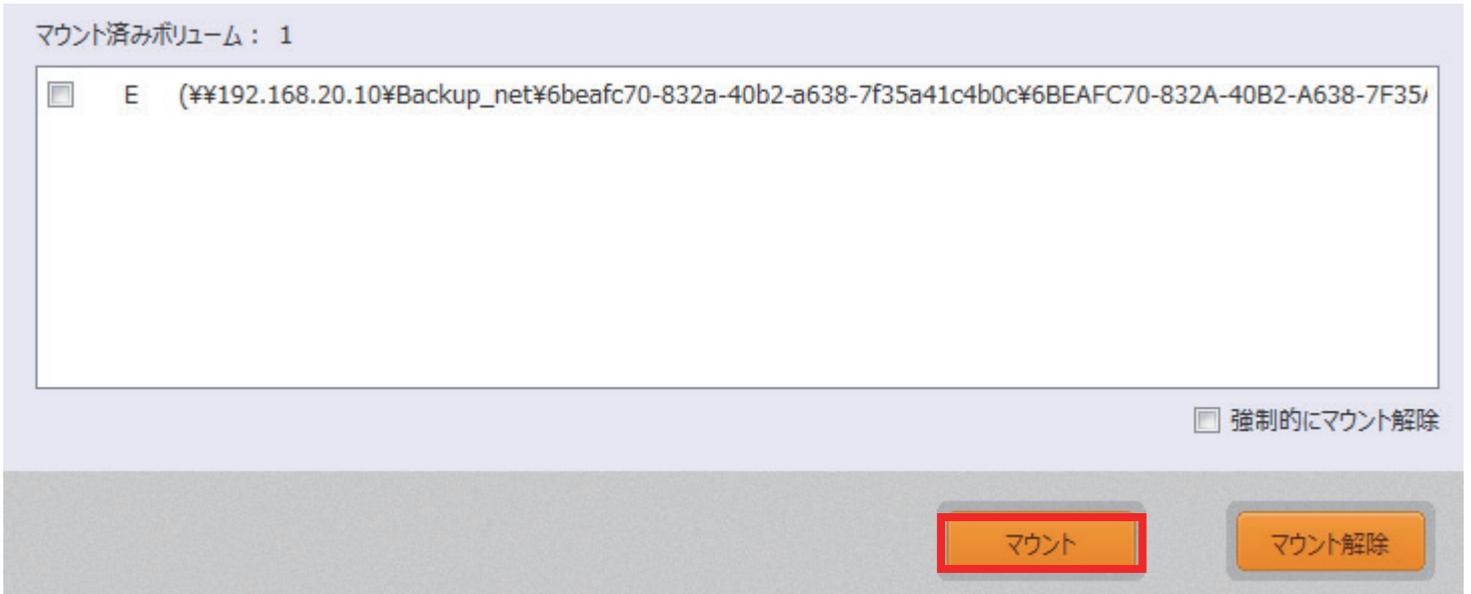
イメージのマウント画面では、左側の「バックアップ保存先」より保存した媒体にアクセスします。ローカルディスクの場合であれば、一覧から参照できます。ネットワーク保存先の場合にも、プルダウンより選択可能です。今回はプルダウンよりネットワーク保存先を選択します。



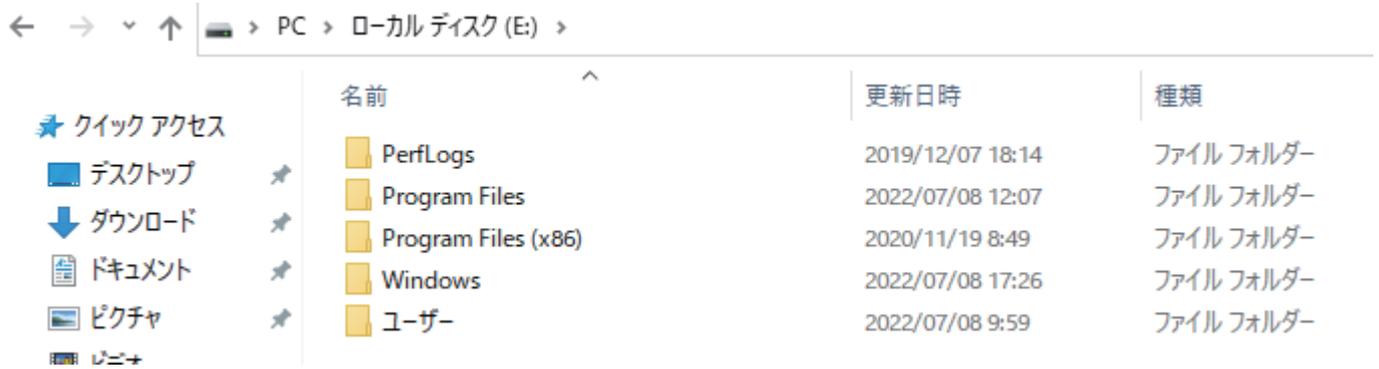
下図のようにコンピューターの欄には、バックアップされているコンピューター名が表示されます。コンピューター名をクリックすると、復元ポイントが表示されます。(増分バックアップなどがある場合には、複数のポイントが表示されます) 取り出したいファイル/フォルダの含まれている復元ポイントを選択すると、ボリューム選択の欄には、含まれているボリュームが表示されます。複数のボリュームをディスク単位でバックアップした場合には、必要なボリュームを選択します。



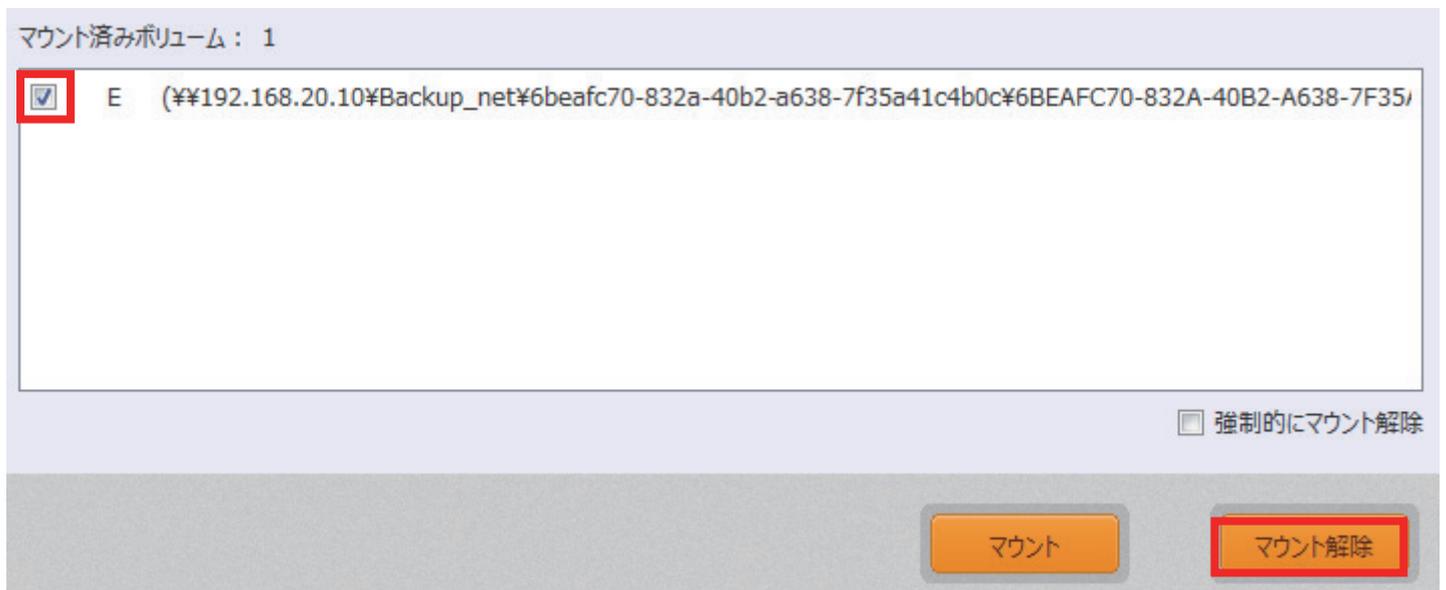
コンピューター名-復元ポイント-ボリュームの選択を行って、コンソールの下にある「マウント」ボタンをクリックすると、下図のようにローカルディスクのように空いているドライブに、バックアップファイルがマウントされます。



マウントされると Windows エクスプローラーで、通常のフォルダにアクセスするのと同様に参照して、必要はファイル/フォルダは、ドラッグ & ドラップで任意の場所にコピーすることができます。



必要な作業完了後、不要になったマウントドライブの赤枠内のチェックを入れて、下のマウント解除をクリックすることにより、マウントされたバックアップファイルは解除されます。また、複数のバックアップファイルをマウントすることも可能で、その場合には、一括で解除することも可能です。



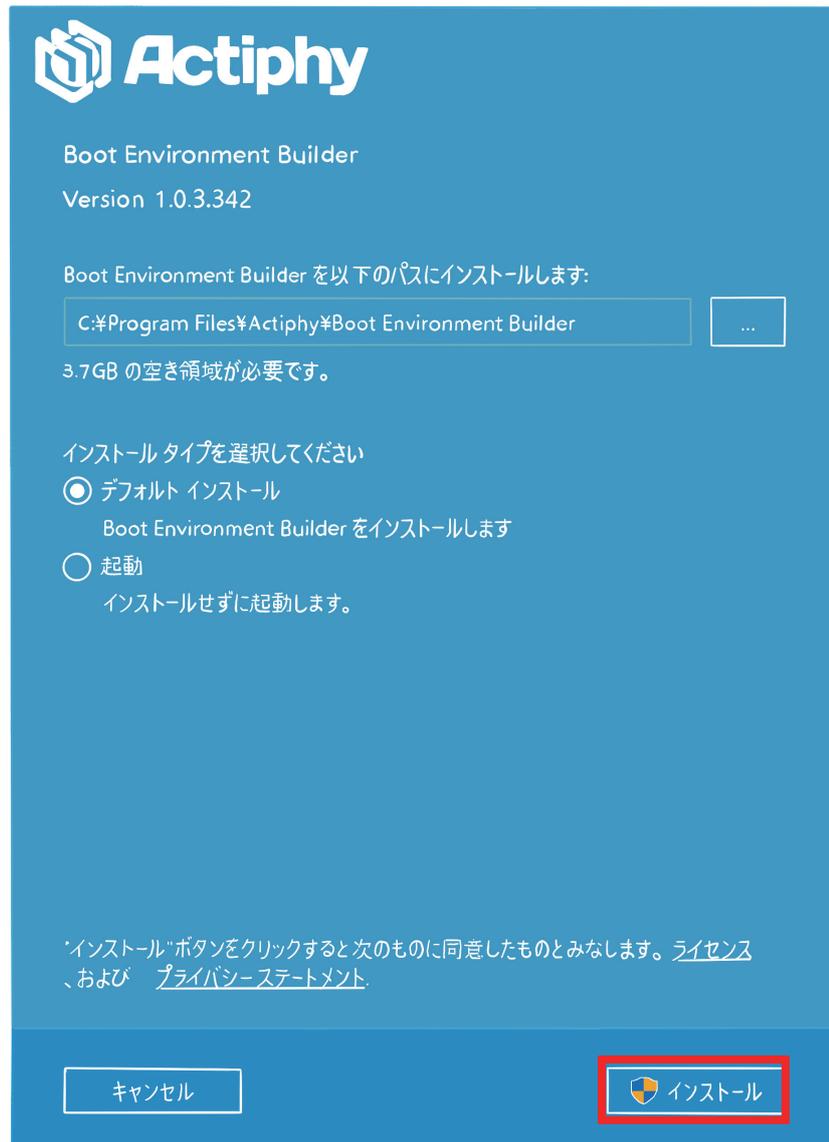
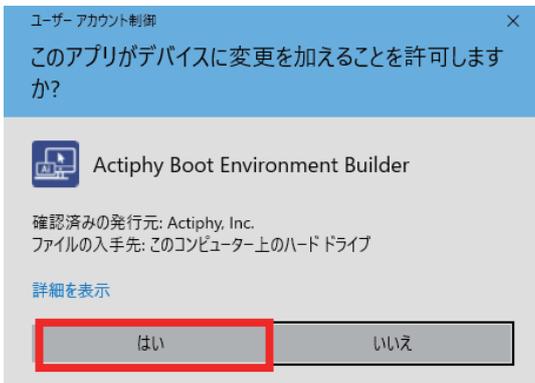
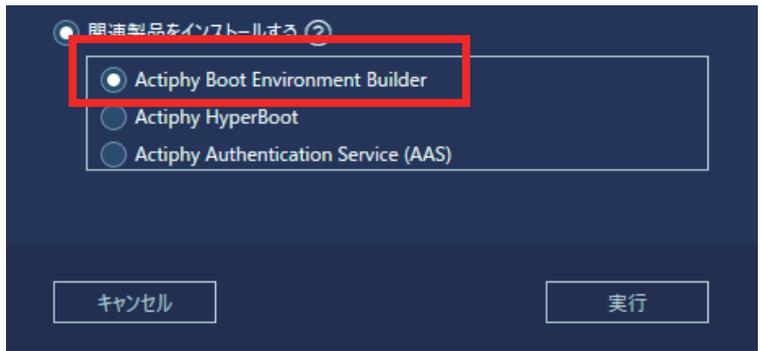
Boot Environment Builder のインストール

障害発生時などに、ActiveImage Protector 2022 で取得したバックアップファイルで、OS を含める全てをリカバリーする場合には、マシンを起動させるためのメディアが必要となります。ActiveImage Protector 2022 のインストーラーを、起動して、必要なプログラムのインストールを行います。

(起動媒体を作成するマシンは、バックアップ対象としているマシン自身でも、異なるマシンでも可能です) セットアップの下位にある Actiphy Boot Environment Builder を選択して「実行」をクリックします。このツールのインストールには、プロダクトキーを入力する必要はありません。

実行をクリックすると右図のインストーラーが表示されますので、「デフォルトインストール」のまま下位にある「インストール」をクリックします。

インストールをクリックすると下図のように表示されますので、「はい」をクリックしてインストールを続行します。



インストールが完了すると、右図のようにアイコンがデスクトップ上に作成されるので、ダブルクリックをして Boot Environment Builder を起動してください。



起動媒体の作成

Actiphy Boot Environment Builder の起動を行うと下図の画面が起動します。始めの画面では、リカバリー専用または、コールドバックアップ可能な起動媒体を作成するか決める必要があります。製品プロダクトキーを入力しない場合は、リカバリー専用となります。コールドバックアップを使用される場合には、「プロダクトキーを使用して起動環境を作成する」の下の部分に、製品プロダクトキーを入力して作成してください。

起動環境のタイプは、Windows ベースまたは Linux ベースのどちらかを選択して下さい。WindowsPC の場合には、下図の通り「Windows RE/PE ベースの起動環境」が選択された状態で、「次へ」をクリックしてください。

Actiphy Boot Environment Builder

Actiphy

Actiphy Boot Environment Builder

Actiphy Boot Environment Builder は、ベアメタル バックアップと復元のために ActiveImage Protector を構成したスタンドアロンで起動可能なメディアを作成します。

* バックアップ機能を有効にするには、有効な ActiveImage Protector のプロダクト キーが必要です。

プロダクト キーを使用せずに起動環境を作成する

プロダクト キーを使用して起動環境を作成する

ActiveImage Protector のプロダクト キーを入力してください

起動環境のタイプを選択してください

Windows RE/PE ベースの起動環境

Linux ベースの起動環境

次へ >

AIP2022 の Boot Environment Builder から、Windows PE（起動媒体の起動 OS 部分）に使用される、Windows ADK を事前にインストールしていなくても、Windows 標準の回復パーティションに含まれる Windows PE を利用して作成できるようになっています。（回復パーティションがない場合には、Windows ADK が必要となります）このため、ドライバーの追加なども容易に行えるようになっています。

次の画面では、起動媒体として何を使用するかを設定します。使用出来るのは、DVD メディア、ISO ファイル、そして、USB HDD/SSD/ メモリーとなります。このガイドでは、USB メモリーを使用して作成を行っています。USB メモリーをこの Boot Environment Builder を起動しているマシンに接続しておくと、下図のように認識しますので、「USB デバイス」を選択して、「次へ」をクリックしてください。

⚡ 起動環境の指定

起動環境の作成形態を指定してください。

DVD メディア
光学メディア/ISO イメージに起動環境を作成します。

ISO イメージの新規作成

C:¥Users¥user¥Documents¥AIPBE.iso 参照...

以下のメディアへ書き込む：

使用するデバイス： VMware SATA CD01 ▼

USB デバイス
USB メディアに起動環境を作成します。

USB デバイス： [Sony] Storage Media (F:) ▼



キャンセル

次へ >

注意



USB デバイス内のすべての元のデータが消去されます。処理を継続しますか？

次に USB デバイス内のデータが全て消去されるメッセージが表示されます。消去されても問題がないか、事前に確認を行った USB デバイスを使用してください。

キャンセル

OK



起動媒体で使用する Windows PE を選択します。デフォルトでは通常の Windows に含まれている RE 領域の Windows PE を利用しますが、必要に応じて Windows ADK で追加された Windows PE も利用することができます。確認の上「次へ」をクリックしてください。

ツールの選択

起動環境を作成するためのツールを選択してください。

- Windows RE
このコンピューターに構成されている Windows RE を使用します。
 - Windows アセスメント & デプロイメント キット (ADK)
Microsoft が提供する Windows ADK を使用します。
- 選択してください...

必要なデバイスドライバーがある場合、次の画面で、必要に応じて追加することが出来ます。また下記より個別にドライバーを追加することができます。設定が終わったら「次へ」をクリックしてください。

デバイス ドライバーの追加

起動環境に組み込むネットワーク、またはストレージ デバイスのドライバーを指定してください。

製造元	デバイス名
▼  ネットワーク アダプター	
<input type="checkbox"/> Intel Corporation	Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection
<input type="checkbox"/> Intel Corporation	Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection
▼  ストレージ アダプター	
<input type="checkbox"/> 標準 NVM Express コントローラー	標準 NVM Express コントローラー
▶  テープドライブ	
▶  その他のドライバー	

+ ドライバー追加

環境設定の確認画面が表示されます。基本的にはデフォルト設定で問題はありません。変更が必要な場合には、変更を行って「次へ」をクリックしてください。

🔧 環境設定

起動環境の設定をしてください。

🌐 表示言語	日本語	▼
🖱️ キーボード タイプ	106 キー 日本語	▼
🖱️ キーボード レイアウト	日本	▼
🕒 タイムゾーン	(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京	▼
🖥️ 画面解像度	1024 x 768 : XGA (推奨)	▼

設定内容を確認して、問題なければ「実行」をクリックすると指定されたデバイスの作成が開始されます。この作業には数分かかりますので、終了までそのままにしてください。

📄 サマリー

作成を開始するには [実行] ボタンをクリックしてください。

ツール :	Windows RE
作成先 :	F
タイムゾーン :	(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京
表示言語 :	日本語
キーボードタイプ :	106 キー 日本語
キーボードレイアウト :	日本
画面解像度 :	1024 x 768 : XGA (推奨)
予測サイズ :	706.7 MB

進捗 (全体) :

進捗 (ステップ) :



キャンセル

< 戻る

実行

起動媒体の作成が完了すると、下図の表示となるので、「閉じる」をクリックして、終了させてください。

目 サマリー

作成を開始するには [実行] ボタンをクリックしてください。

ツール:	Windows RE
作成先:	F
タイムゾーン:	(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京
表示言語:	日本語
キーボードタイプ:	106 キー 日本語
キーボードレイアウト:	日本
画面解像度:	1024 x 768 : XGA (推奨)
予測サイズ:	706.7 MB

進捗 (全体) :

USB デバイスの作成に成功しました

進捗 (ステップ) :



キャンセル

< 戻る

閉じる

起動媒体の活用

完成した起動デバイスは PC のシステム全体を復旧したい場合に、簡単にご使用頂けます。

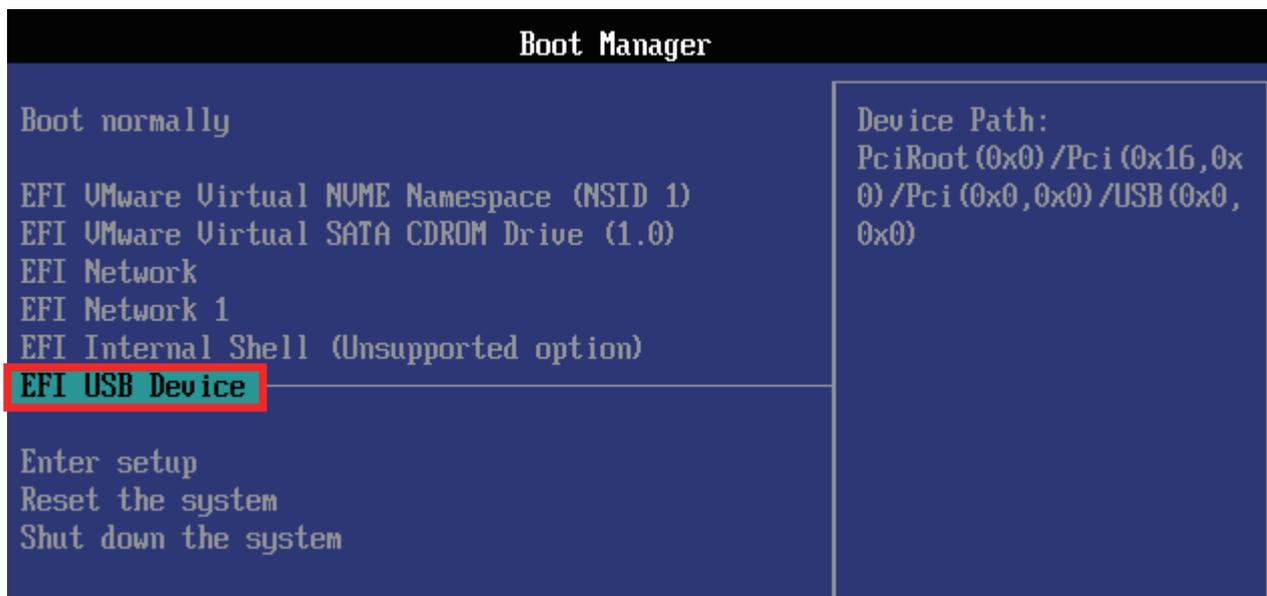
もしも、PC が起動しない状態となっても、ハードウェアが故障していなければ、リカバリーが可能です。またディスクを交換して復旧する場合には、復旧前にディスクのフォーマットなども行う必要はなく、ベアメタルリカバリーで復旧可能です。(ダイナミックディスク構成は除く)

USB HDD/SSD で起動デバイスを作成した場合には、その USB HDD/SSD の中に、イメージを保管出来る部分を自動的に NTFS で作成されていますので、容量が空いている場合には、起動デバイス内部にバックアップファイルを保管することができます。外出先の緊急時でも、その場で簡単にシステムをリカバリーすることを実現します。

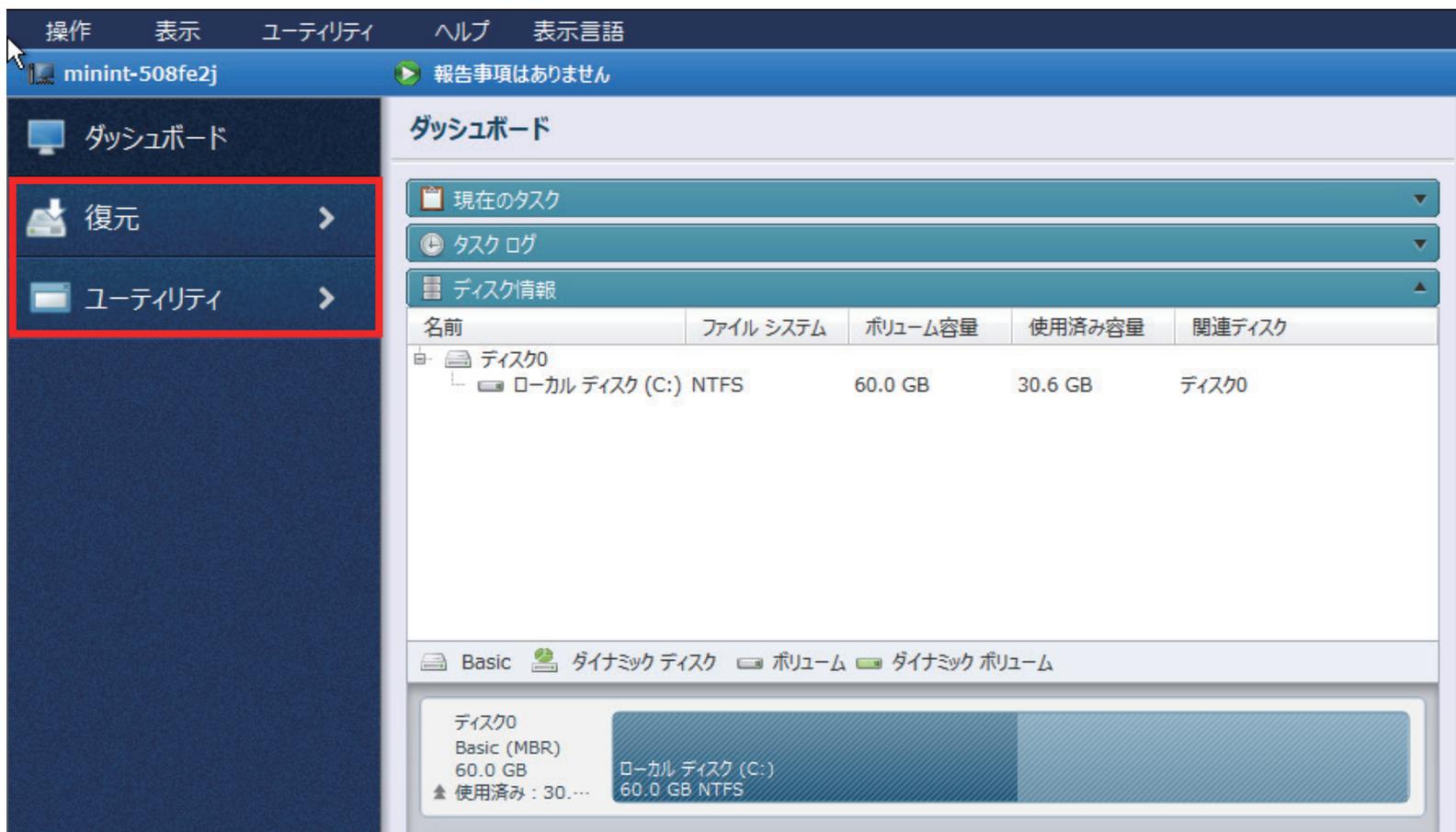


起動媒体での起動と、ネットワーク設定

システム全体のリカバリーを行う場合、始めに作成した起動媒体を PC に接続して、Boot Menu より作成した媒体で起動してください。このガイドでは USB メモリで起動媒体を作成した例で記述をします。USB メモリを PC に接続して PC の電源投入を行います。Boot Menu を表示させます。(メーカー毎に Boot Menu の表示方法が異なりますので、お使いの PC の Boot Menu の表示方法を確認してから、作業を行って下さい。) 下図は Boot Menu です。表示されている「USB Device」を選択して起動します。



暫くすると ActiveImage Protector 2022 のリカバリー画面が表示されます。今回はプロダクトキーを入力していないリカバリー専用起動媒体で作成しているので、下図のように機能としては復元のみとなります。起動媒体内のディスクにバックアップファイルを保存している場合には、下図復元をクリックしてそのままバックアップファイルを選択して復元します。今回は NAS を保存先とした手順を記載しますので、始めにユーティリティをクリックしてください。(NAS の共有フォルダへのアクセスにはネットワーク設定が必要となるため、始めにネットワーク設定を行います)



ユーティリティをクリックすると、各種設定項目が表示されます。その中の「ネットワーク設定」をクリックしてください。



「ネットワーク設定」をクリックすると、下図の設定画面が表示されます。

①の部分で、IP アドレスの設定を行います。DHCP 環境の場合であれば、IP アドレスは自動で取得されるので、デフォルト設定の「IP アドレスを自動的に取得する」のままで③をクリックしてください。

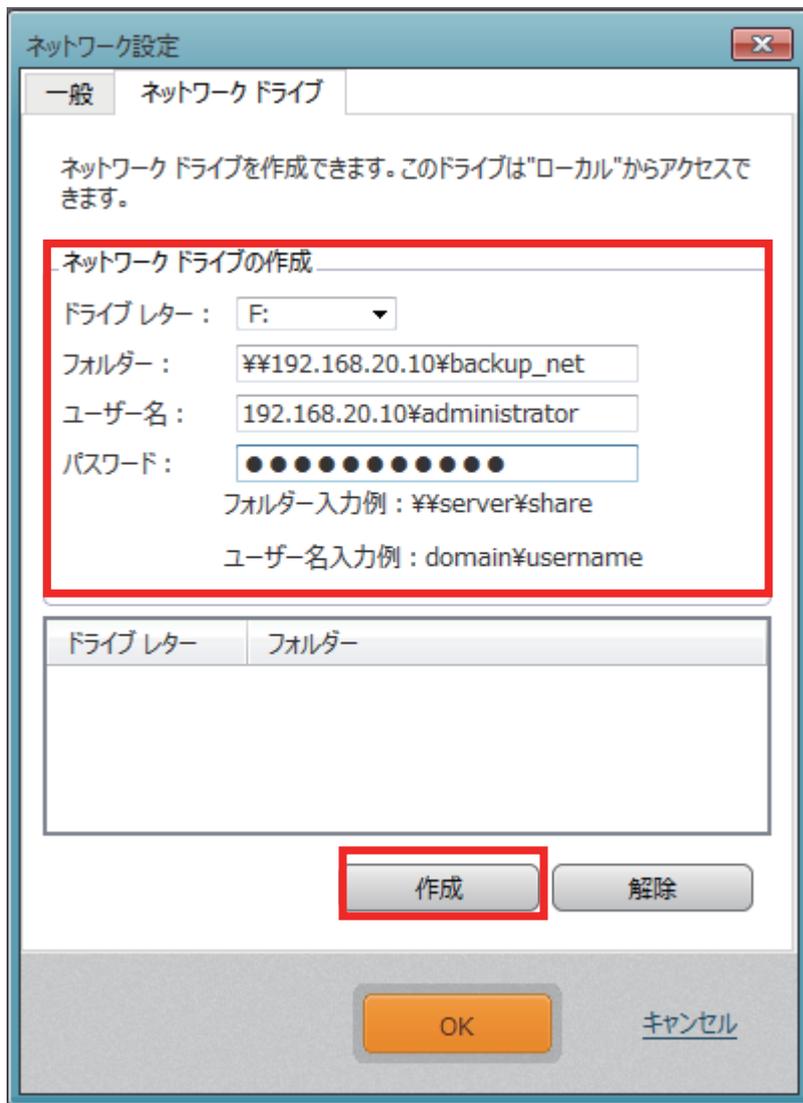
静的アドレス（固定 IP アドレス）を設定する場合には、「以下の IP アドレスを使用する」をクリックして、IP アドレス サブネットマスク デフォルトゲートウェイを設定後に、②の「適用」をクリックしてください。

「適用」をクリックすることにより IP が設定されます。次にバックアップファイルを保存しているネットワーク先の、共有フォルダにアクセスするための設定をおこないますので、③の「ネットワークドライブ」をクリックします。

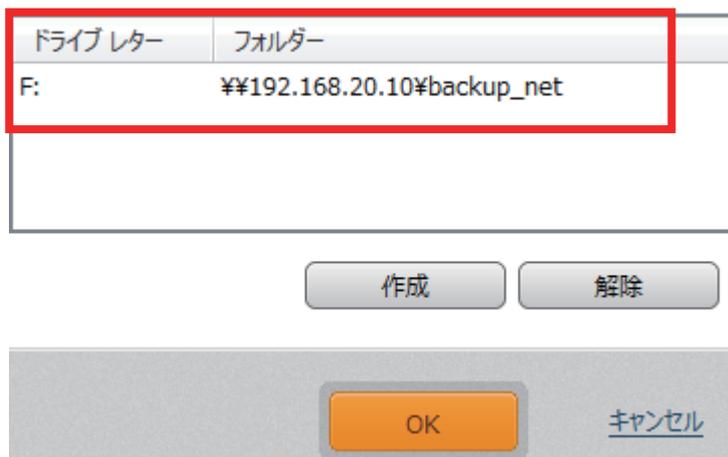


※ネットワークインターフェイスが2個以上ある場合で、固定 IP を設定する場合には、保存先に接続しているネットワークインターフェイスを確認して設定を行ってください。「ネットワークアダプター」の部分で、プルダウンメニューから変更できます。

NAS の共有フォルダへのアクセス設定を行います。下図のように、上から UNC パスで、共有フォルダまでのパスを入力、そして NAS へアクセス可能なユーザーアカウントを入力、最後にアカウントのパスワードを入力して、「作成」をクリックしてください。正しく設定されていない場合には、接続が行えませんので、その場合には、ユーティリティ内にある、下図の「コマンドプロンプトを起動」を使用して、ping などでネットワークの確認をしてください。



「作成」をクリックして正常にバックアップ保存先の NAS の共有フォルダが、ローカルマウントされると下図のように、表示されます。この状態で、バックアップファイルがローカルディスクに保存している場合と同様に扱うことが、できるようになります。



システム全体の復元

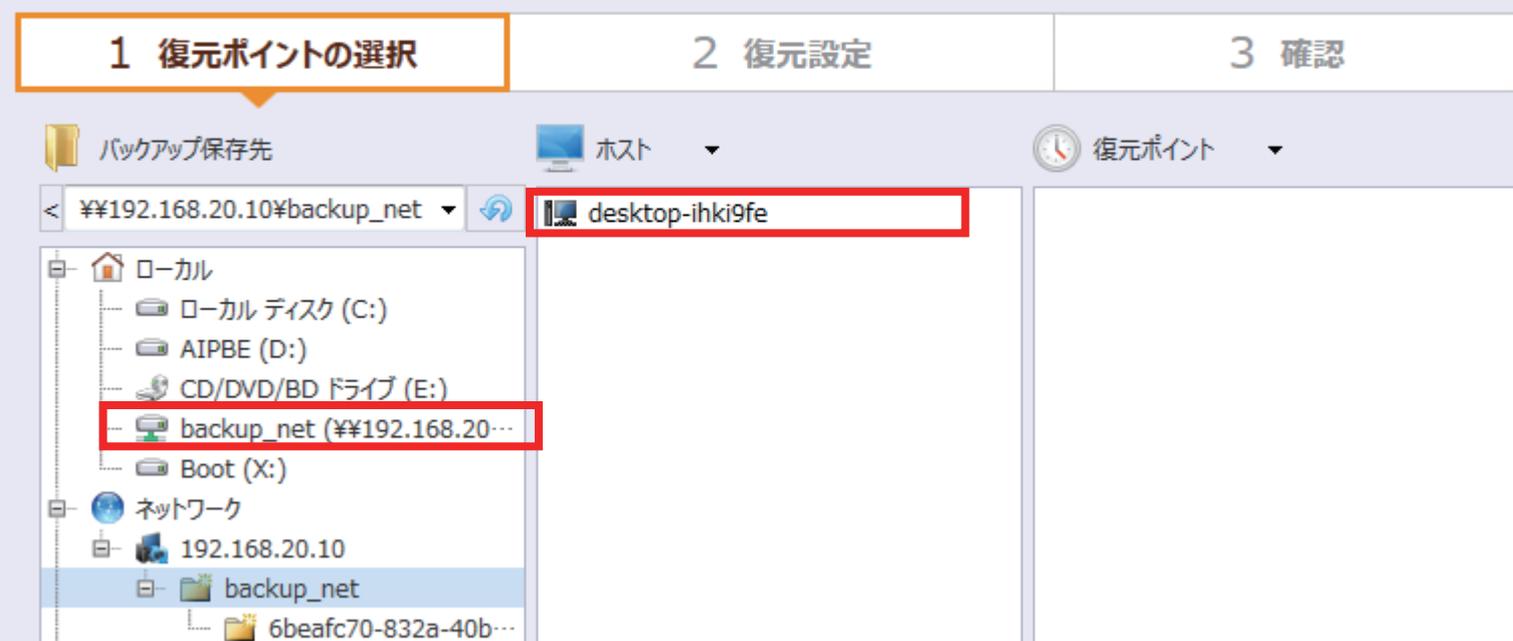
システム全体の復元を行うので、メインコンソールの「復元」をクリックしてください。下図のように右側のウィンドウに復元方法が表示されますので、「ボリューム復元」をクリックします。

※ローカルディスクに保存されている場合には、このステップからの操作で復元を行えます。

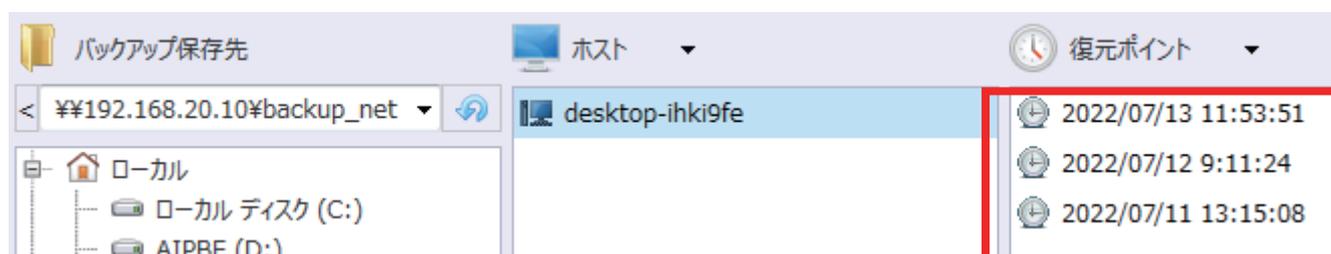


下図の画面が表示されたら、バックアップファイルを保存している先のアイコンをクリックすると、その中に保存されているマシン名が「ホスト」欄に表示されます。復元したいマシン名をクリックすると、そのマシンのバックアップファイルで、復元可能な「復元ポイント」が表示されます。

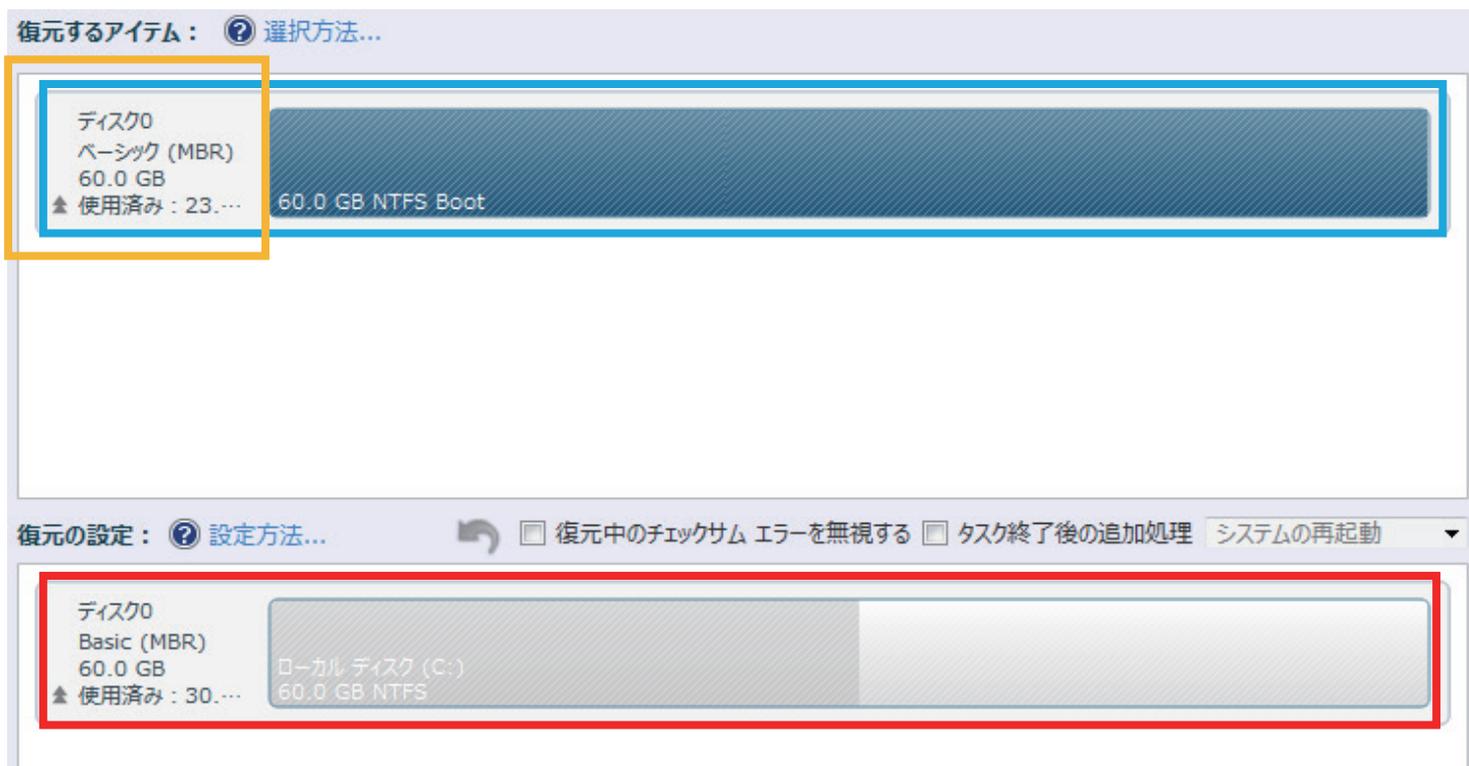
ボリューム復元



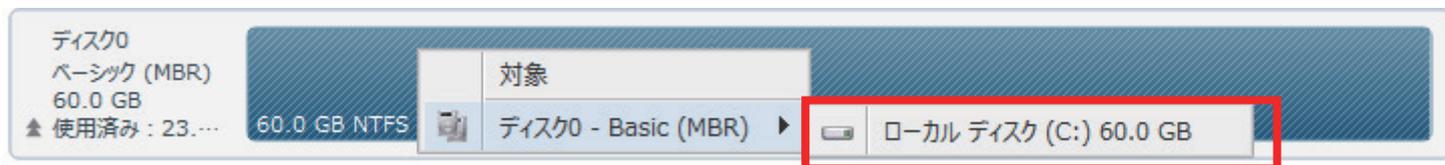
復元したいタイミングの復元ポイントをクリックして選択してください。選択後ウィンドウ下の「次へ」をクリックして下さい。



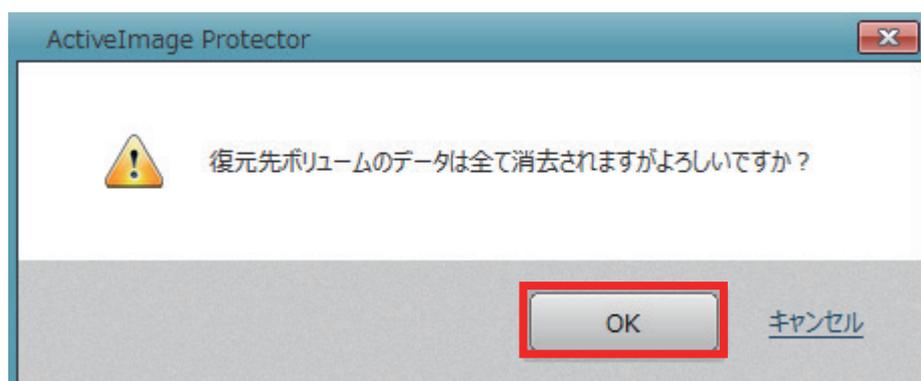
次の画面に切替わります。この画面では上端の青枠は、選択したバックアップファイルのディスク構成の内容となります。下段の赤枠は、実際の復元先に復元した場合の、ディスクの状態を表示しています。ここでの選択方法は複数ありますが、ここではマウスをオーバーして右クリックして選択する方法で記述しています。黄枠内で、右クリックをしてください。
 ※黄枠外で右クリックした場合には、ボリューム単位の復元となります。



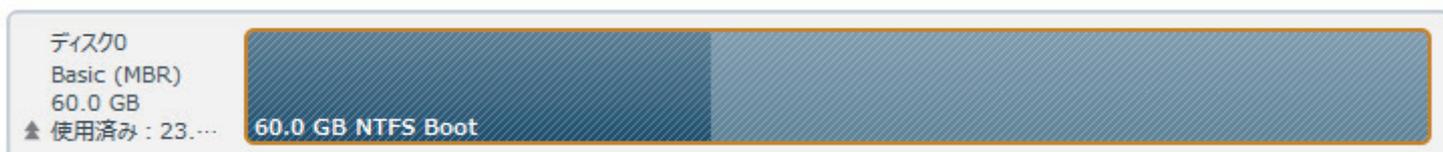
右クリックを上図の青枠内で行うと、下図のようにミニメニューが表示されます。復元先を「ディスク0」を選択すると、左右どちらかにスライドして「ローカルディスク」の表示がされますので、この部分にカーソルを合わせて左クリックします。



セクターコピーで復元しますので、現在のHDD /SSDの内容は消去されます。問題なければ、「OK」をクリックして下さい。



下段の復元先のディスク情報部分が、バックアップファイルの復元後の状態表示に変更されます。問題なければウィンドウ下段の「次へ」をクリックして下さい。



処理の最終確認画面が表示されます。内容を確認して問題なければ、「完了」をクリックして下さい。復元処理が開始されます。



復元が開始されるとコンソールの画面が切り替わり、タスクの進捗ステータスが表示されます。処理が完了するまでお待ち下さい。

現在のタスク			
ステータス	タスク	開始時刻	進捗(%)
実行中	復元	2022/07/13 13:35:00	7.9 %

復元処理が完了すると、下図のように表示されるので、復元処理は完了となります。

現在のタスク			
ステータス	タスク	開始時刻	進捗(%)
完了	復元	2022/07/13 13:36:00	100.0 %

復元処理完了後は、ウィンドウの左上の「操作」から「終了」「シャットダウン」または「再起動」を行ってシステムを通常起動して下さい。





© 2022 Actiphy, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社アクティブファイに所有権および著作権があります

本ガイド中のその他のブランド名及び製品名は、それぞれ帰属する所有者の商標または登録商標です。